



Kanazawa Neurosurgical Hospital

2010年  
冬季号

金沢脳神経外科病院だより

# ふれあい

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 浅ノ川  
金沢脳神経外科病院 広報誌  
**第37号**  
発行所/メディア広報室  
石川県石川郡野々市町郷町262-2  
TEL 076-246-5600  
FAX 076-246-3914  
<http://www.nouge.net>

## 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

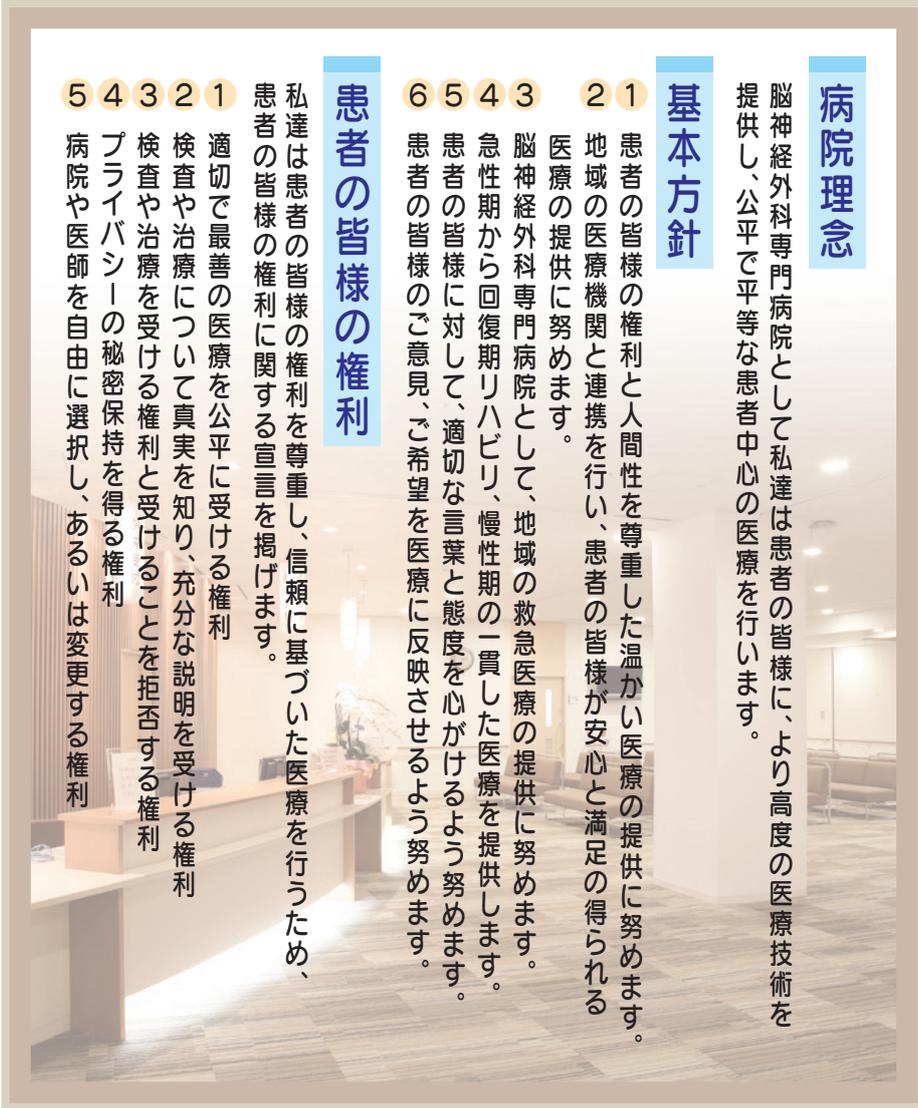
## 基本方針

- 1 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
- 2 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
- 3 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
- 4 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
- 5 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
- 6 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

## 患者の皆様のご権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

- 1 適切で最善の医療を公平に受ける権利
- 2 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
- 3 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
- 4 プライバシーの秘密保持を得る権利
- 5 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利



## 開院30周年を 迎えるにあたり

病院長 佐藤 秀次



今年本院にとって開院30周年の大きな節目にあたる年です。地域医療の中で、本院が貢献できることは何か、地域が本院に求めるものは何か、これらを問い続けてきた30年でもありました。この間、本院は脳卒中、救急、脊椎疾患、認知症の治療を主要任務と位置づけ、さらに回復期リハビリテーションを拡充するとともに、療養病棟は高度障害をもった医療依存度の高い患者のために残し、介護力の強化を図ってまいりました。本院の看護力・介護の高さを示すものとして、院内褥瘡(じよくそう)発生ゼロがあります。まさにプロ集団の誇りがなせる技と言え

ます。医療は既に役割分担と連携の時代に入っています。本院は地域でもいち早く医療連携に取り組み、患者中心の医療を実践してきました。現在、350を超える医療機関に連携登録していただき、病期に基づく役割分担の医療が地域に根付いています。新しい取り組みとしては、脳卒中の急性期から回復期、回復期から在宅・施設への地域連携システムを目下、構築中です。脳卒中患者が個々に適した生活の場へ切れ目なくスムーズに移行できるように医療機関と行政の密なる協力が益々必要となります。このような大事な時期に地域の皆様のお陰で、本院が無事30周年を迎えることができますことに感謝申し上げますと共に、これからも本院の地域における役割を見据え、地域医療の更なる発展に尽力して参ります。

(褥瘡：患者が長期にわたり同じ体勢で寝たきり等になった場合、体と支持面(多くはベッド)との接触局所で血行が不全となって、周辺組織に壊死を起すものをいう。床ずれ(とずれ)とも呼ばれる。)



## 登録医療機関紹介コーナー



### 船木・上野病院



副院長：船木 健一郎先生

内臓疾患に対するきめ細やかなトータルケアを提供する病院

今回ご紹介する医療機関は「船木・上野病院」です。同院の副院長である船木健一郎先生にお話を聞かせていただきました。

先生は、宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)を卒業後、金沢大学医学部第二外科に入局され、富山県立中央病院、恵寿総合病院、珠洲総合病院、公立松任石川中央病院、金沢社会保険病院に勤務の後、平成19年から同院で現職に就かれています。

病院は、昭和60年に先生のお父様である船木宏美先生と叔父の船木悦郎先生が船木内科外科病院として野々市町太平寺に開業されました。平成16年に叔父の上野桂一先生が病院長に就任され、現在の船木・上野病院に病院名を改め、開業以来今も変わらず「24時間365日、いつでも診療可能、入院可能な病院」として地域から慕われ頼りにされています。病院では、「全ての患者様に信頼される病院」という基本理念のもと、内臓疾患

に対する内科的治療から外科的治療に至るまでのトータルケアが行われています。とくに低侵襲で患者さんに優しい内視鏡外科手術の治療に力を入れ、北陸内視鏡外科研究会の事務局としての役割も担っており、研究会の代表である上野病院長を中心に北陸3県の医師が集まり、内視鏡外科手術の安全かつ堅実な普及と発展を目指して研究を重ねていらっしゃいます。また、先生は、「病気になるたとき、最初に来てもらえる病院でありたいですね。」とおっしゃるように、内視鏡外科手術や消化器がん根治を目指した最新の治療などの専門性の高い診療だけでなく、消化性潰瘍、肛門疾患、鼠径ヘルニア、乳腺甲状腺疾患などの日常的な疾患も診療されています。これらの専門性の高い医療を提供する病院であるとともに身近な「かかりつけ医」でもある、まさに地域からの声に耳を傾け、地域が求める医療を提供する病院であると感じました。

先生に当院との連携についてお尋ねすると「専門性の高い病院が近くにあるのは非常に心強いです。」とお言葉をいただきました。当院は、これからも専門性に磨きをかけ、地域連携を強化して地域の先生や患者さんから選択される病院であるよう努めていきたいと思われました。



石川県石川郡野々市町  
大平寺4-71  
○電話番号○  
076-1248-16686



平成21年には405件の脊椎疾患の手術を行いました。その大部分は脊椎変性疾患です。脊椎変性疾患とは椎間板や骨、関節、じん帯などの加齢変化が主因になって引き起こされる脊椎の病気で、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、すべり症、じん帯骨化症などがそれにあたります。脊椎変性疾患の治療には、薬物治療や牽引など多数の保存療法と手術治療があります。

本院は、手術治療に特化した専門病院として今日まで歩んできましたが、とりわけ脊椎変性疾患に対する外科治療の低侵襲化を目標としてきました。その二つのゴールとも言えるのは、本院が現在最も得意とするMD手術です。MD手術とは、最小の皮膚切開で筋肉を傷めず、脊髄や神経の圧迫をとる手術です。その手術を行うために直径16mmの筒状の開創器と手術顕微鏡を

シリーズ 脊椎変性疾患に対する外科治療

## 当院での脊椎変性疾患に対する取り組み

2000例を超えたMD手術

病院長 佐藤 秀次

用います。このMD手術を今日までに約2000例手がけてきましたが、手術件数は増加の一途です。なぜ、それほどまでの増加を示しているのでしょうか。脊椎変性疾患は先にも述べたように加齢とともに増える病気であることから、高齢化社会の進展とともに、脊椎変性疾患に悩む患者数が自然増加しています。さらに、脊椎変性疾患に対する治療は保存治療が主流であり、手術治療は障害の進行した二部の患者に行われるにとどまってきました。また、従来の手術治療に見られた重篤な合併症と手術効果の確実性が、患者を手術治療に対して消極的にしてきました。これらが総合した結果として、脊椎変性疾患による症状に悩む患者が増加したと言えるでしょう。

私は脊椎変性疾患による脊髄神経性の痛みやしびれ、歩行障害などは手術治療によって改善可能であり、手術の時期さえ適切であれば、これらの症状を取り除くことができると考えています。そのような考えに基づき多数の脊椎手術を手がけてきた結果、その考えに間違いはないと確信するに至っています。

次回からは、個々の脊椎変性疾患の手術治療の現況について説明いたします。第1回目は腰椎椎間板ヘルニアです。



### 患者さんコーナー

金沢市在住 高木 和子様

永年私は腰の痛みで悩んでおり整形外科、治療院等に通院しておりましたが、改善することもなく右足までもが痛くなり横になると痛みが激しく眠れない夜が続きました。内科の先生に相談しましたら金沢脳神経外科病院を紹介されました。

診療を受け院長先生の診断結果の説明をしていただきましたら「腰椎症性脊柱管狭窄症」である

とお聞きしました。先生は手術することを勧められましたので是非この先生のもとで手術を受けたいと決意させていただきました。

手術はMD法によって改善する方法で私も納得することができました。11月30日に入院し、12月1日に手術を受けることができました。2、3は不安でしたがおかげさまで1日1日、順調に回復してまいります。本当に喜んでおります。あとは数日で、12月15日退院の予定であります。院長先生はじめ、皆様様にお世話になりました。心から感謝と御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

### 「耳よりな講演会」開催中です。

12月17日に佐藤病院長が、金沢信用金庫野々市支店にて金信会青年経営者の会員及び金信職員の方々を対象に「貴方は大丈夫ですか?」働き盛りに多い「脳卒中」と題した講演を行いました。今回の講演会は金沢信用金庫野々市支店から、金信会の青年経営者の皆さん

に健康管理の重要性について講演してほしいとの依頼があり実現しました。最近、若い方々にも増えている脳卒中と認知症、それに加え当院が行う腰や頸部のMD法手術についてご紹介いたしました。

12月21日には金沢市の福増南交流館で、当院の東川リハビリセンター副技士長が講師を務め、「認知症予防」についての講演会を行いました。認知症発見に役立つ「もの忘れチェック」や運動、新聞を読む、手紙を書くなどの予防法を紹介しました。

### 加賀地区における

### 脳卒中連携体制構築に向けて

地域連携パスをツールとした脳卒中地域連携体制構築に向けて



梅森脳卒中センター長

1月23日に当院にて加賀脳卒中地域連携パスWG主催による「加賀地区における脳卒中連携体制構築に向けて」と題した勉強会が、加賀地区のケアマネージャーや連携パスの業務に従事されている方など100名を超える参加者にお集まりいただき行われました。

最初に梅森脳卒中センター長が「脳卒中の急性期治療について」と題して当院で行っている急性期の脳卒中の治療について講演しました。また、急性期治療と並行して行われ患者さんの予後にも大きく影響する急性期のリハビリテーションについて「脳卒中のリハビリテーションについて」と題して河崎リハビリセンター次長が講演を行いました。柳村地域医療連携室主任からは加賀脳卒中地域連携パスの現況について発表がありました。講演・発表とともに、参加者の方々には好評で、その後の質疑応答では、活発な討議が行われ盛況のうちに閉会しました。

